

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 社会の理解		授業の種類 講義		授業担当者 中澤 里映	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年通年 (前期)	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人が自立した生活を営むということを理解するため、個人、家族、近隣、地域、社会の単位で人間をとらえる視点を養い、人間の生活と社会の関わりや、自助から公助に至る過程について理解する学習とする。また、我が国の社会保障の基本的な考え方や歴史と変遷、仕組みについて理解する学習とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人が生活していく家族という単位、地域、帰属する社会、社会構造の変化によってライフスタイルの変化、社会保障制度の発達など社会全体の成り立ちや現代社会における社会保障制度が理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①個人、社会の成り立ちや関係性を理解できる ②社会保障の基本的な考え方を述べることができる</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 生活と福祉① (家庭生活の基本機能、家族、地域) 2 生活と福祉② (社会・組織、社会構造とライフスタイルの変化) 3 生活支援と福祉 (地域福祉、自助・公助・共助について) 4 社会保障制度の基本的な考え方 (概念・役割・意義) 5 社会保障制度の発達① (戦後の緊急援護と社会保障の基盤整備) 6 社会保障制度の発達② (国民皆保険・皆年金の実現) 7 社会保障制度の発達③ (財源) 8 社会保障制度の発達④ (社会保障構造改革) 9 社会保障制度の発達⑤ (社会保障のしくみ) 10 社会保障制度の発達⑥ (社会扶助のしくみ) 11 社会保障制度の発達⑦ (社会保障の関連制度) 12 現代社会における社会保障制度① (現在の課題) 13 現代社会における社会保障制度② (これからの社会保障制度) 14 まとめ 15 試験 					
[使用テキスト・参考文献] 「社会の理解」中央法規出版 参考文献は適時紹介			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する		
<p>実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)</p>					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 音楽		授業の種類 演習		授業担当者 汲田 幸世																														
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(1単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] 施設で利用者の方達と、童謡や懐かしい歌（明治、大正、昭和の歌）と一緒に歌ったり、踊ったりしてコミュニケーションをとれる様にする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 小・中・高校で習ってきた音楽の授業とは違い、施設等で利用者の方たちに喜んでもらえる様な歌を主に勉強します。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）] 利用者の方達とコミュニケーションを取るひとつの手段として、色々な歌が歌えるようになるのを目指します。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 70%;">1 かごの鳥、うさぎとかめ、南国土佐を後にして</td> <td style="width: 30%;">他</td> </tr> <tr> <td>2 こいのぼり、リンゴの唄</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>3 茶摘み、アルプス一万尺</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>4 炭坑節、青い山脈</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>5 夏は来ぬ、海、われは海の子、里の秋、紅葉</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>6 涙そうそう</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>7 千の風になって、故郷、誰か故郷を思わざる</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>8 高原列車は行く、蘇州夜曲</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>9 やすらぎの家 利用者と交流①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10 憧れのハワイ航路、七夕、山小屋の灯</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>11 やすらぎの家 利用者と交流②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12 やすらぎの家 利用者と交流③</td> <td></td> </tr> <tr> <td>13 やすらぎの家 利用者と交流④</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14 上を向いて歩こう、星影のワルツ、川の流れのように</td> <td>他</td> </tr> <tr> <td>15 グループ歌唱</td> <td></td> </tr> </table>					1 かごの鳥、うさぎとかめ、南国土佐を後にして	他	2 こいのぼり、リンゴの唄	他	3 茶摘み、アルプス一万尺	他	4 炭坑節、青い山脈	他	5 夏は来ぬ、海、われは海の子、里の秋、紅葉	他	6 涙そうそう	他	7 千の風になって、故郷、誰か故郷を思わざる	他	8 高原列車は行く、蘇州夜曲	他	9 やすらぎの家 利用者と交流①		10 憧れのハワイ航路、七夕、山小屋の灯	他	11 やすらぎの家 利用者と交流②		12 やすらぎの家 利用者と交流③		13 やすらぎの家 利用者と交流④		14 上を向いて歩こう、星影のワルツ、川の流れのように	他	15 グループ歌唱	
1 かごの鳥、うさぎとかめ、南国土佐を後にして	他																																	
2 こいのぼり、リンゴの唄	他																																	
3 茶摘み、アルプス一万尺	他																																	
4 炭坑節、青い山脈	他																																	
5 夏は来ぬ、海、われは海の子、里の秋、紅葉	他																																	
6 涙そうそう	他																																	
7 千の風になって、故郷、誰か故郷を思わざる	他																																	
8 高原列車は行く、蘇州夜曲	他																																	
9 やすらぎの家 利用者と交流①																																		
10 憧れのハワイ航路、七夕、山小屋の灯	他																																	
11 やすらぎの家 利用者と交流②																																		
12 やすらぎの家 利用者と交流③																																		
13 やすらぎの家 利用者と交流④																																		
14 上を向いて歩こう、星影のワルツ、川の流れのように	他																																	
15 グループ歌唱																																		
[使用テキスト・参考文献] 「愛唱名歌」 野ばら社 毎時間、上記（本）以外の楽譜を配布する。 。		[単位認定の方法及び基準] 出席、試験（グループ演奏）、授業態度を総合的に評価。特に授業態度を重視する。																																
教員の実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)																																		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 日本語表現		授業の種類 講義		授業担当者 大石 美智子		
授業の回数 15回	時間数(単位数) 60時間(4単位)	配当学年・時期 1年通年(前期)	必修・選択 必修			
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>日本語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活の充実を図る態度を育てる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>(1) 必要とされる基礎的な漢字・語彙・表記・表現の知識をまず身につけ、レポート・実務的手紙文などの書き方を学ぶ。</p> <p>(2) 上記の内容のために、テキストをもとにした講義と実習を行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>日本語における「読む」「聞く」「書く」の能力がバランスよく育成され、1年生の福祉専門教科の学習・実習を円滑かつ効果的に身につけるための基礎力養成。</p>						
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介・表現するということ 2 私の高校生活 3 基礎知識(漢字、ことわざ、文学史) 4 基礎知識(故事成語、文学史) 5 基礎知識(慣用句) 6 漢字、ことわざ、故事成語 7 文学史 8 名文に親しむ、美しい文章 9 名文、美しい文章に親しむ 10 三字熟語(文学史) 11 四字熟語(文学史) 12 時事用語、文章題(国際) 13 時事用語、文章題(社会) 14 難読語、名言 15 整理と確認 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介文を書く。名刺カード作り ・ 今までの文章表現を振り返る。原稿用紙の使い方 ・ ことわざをどれだけ知っているか ・ 文学史、名文、美文を覚える ・ ことわざの使い方、各文の冒頭文を暗唱する ・ 整理と確認、テスト実施 3級までの漢字 ・ 近代の文学作品を読む ・ 冒頭文を書写、覚える ・ 朗読や輪読をする ・ 準2級程度の漢字や熟語の意味を知る ・ 準2級程度の漢字や熟語の意味を知る ・ 新聞を活用する ・ 新聞を活用する ・ 漢字の意味を説明する ・ まとめをする </td> </tr> </table>					<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介・表現するということ 2 私の高校生活 3 基礎知識(漢字、ことわざ、文学史) 4 基礎知識(故事成語、文学史) 5 基礎知識(慣用句) 6 漢字、ことわざ、故事成語 7 文学史 8 名文に親しむ、美しい文章 9 名文、美しい文章に親しむ 10 三字熟語(文学史) 11 四字熟語(文学史) 12 時事用語、文章題(国際) 13 時事用語、文章題(社会) 14 難読語、名言 15 整理と確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介文を書く。名刺カード作り ・ 今までの文章表現を振り返る。原稿用紙の使い方 ・ ことわざをどれだけ知っているか ・ 文学史、名文、美文を覚える ・ ことわざの使い方、各文の冒頭文を暗唱する ・ 整理と確認、テスト実施 3級までの漢字 ・ 近代の文学作品を読む ・ 冒頭文を書写、覚える ・ 朗読や輪読をする ・ 準2級程度の漢字や熟語の意味を知る ・ 準2級程度の漢字や熟語の意味を知る ・ 新聞を活用する ・ 新聞を活用する ・ 漢字の意味を説明する ・ まとめをする
<ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介・表現するということ 2 私の高校生活 3 基礎知識(漢字、ことわざ、文学史) 4 基礎知識(故事成語、文学史) 5 基礎知識(慣用句) 6 漢字、ことわざ、故事成語 7 文学史 8 名文に親しむ、美しい文章 9 名文、美しい文章に親しむ 10 三字熟語(文学史) 11 四字熟語(文学史) 12 時事用語、文章題(国際) 13 時事用語、文章題(社会) 14 難読語、名言 15 整理と確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 紹介文を書く。名刺カード作り ・ 今までの文章表現を振り返る。原稿用紙の使い方 ・ ことわざをどれだけ知っているか ・ 文学史、名文、美文を覚える ・ ことわざの使い方、各文の冒頭文を暗唱する ・ 整理と確認、テスト実施 3級までの漢字 ・ 近代の文学作品を読む ・ 冒頭文を書写、覚える ・ 朗読や輪読をする ・ 準2級程度の漢字や熟語の意味を知る ・ 準2級程度の漢字や熟語の意味を知る ・ 新聞を活用する ・ 新聞を活用する ・ 漢字の意味を説明する ・ まとめをする 					
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「プライム常用国語」第一学習社</p>		<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 筆記試験 ・ 提出物 ・ 授業中の態度、意欲 				
<p>教員の実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)</p>						

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) レクリエーション活動援助法 I		授業の種類 講義・実技実習・演習		授業担当者 横川 遊龜壽																																																																					
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修																																																																					
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>レクリエーション支援者としての人間性を育て、福祉現場で実働できる理論と実技を身に付ける。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>レクリエーション理論と実技を日レク・インストラクターの学習内容に準拠して学習する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>福祉現場でレクリエーション支援の企画と実技が出来るようになる。</p>																																																																									
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>科目1、2、3は理論 科目4、5実技 科目6、7は演習であり、科目7は施設実習や、県レクの事業に参画することによって習得する。</p> <p>授業方法は、講義と実技の演習を重ねて展開する。項目は各回のメインとなるものである</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">1、レクリエーション概論</td> <td style="width: 30%;">(学習のガイダンス)</td> <td style="width: 20%;">ゲーム体験</td> <td style="width: 20%;">科目 1</td> </tr> <tr> <td>2、楽しさを通しての心の元気づくり</td> <td>ソング・ダンスの体操</td> <td></td> <td>科目 2</td> </tr> <tr> <td>3、レクリエーション活動の習得</td> <td>個々の活動の習得</td> <td>ゲーム</td> <td>科目 5</td> </tr> <tr> <td>4、レクリエーション支援の理論</td> <td>信頼関係づくりの理論</td> <td></td> <td>科目 3</td> </tr> <tr> <td>5、レクリエーション支援の方法</td> <td>信頼関係づくりの方法、ホスピタリティ</td> <td></td> <td>科目 4</td> </tr> <tr> <td>6、個々の活動の習得</td> <td>フォークダンス (レクダンス)</td> <td></td> <td>科目 5</td> </tr> <tr> <td>7、良好な集団作りの理論</td> <td>アイスブレイキングの方法</td> <td></td> <td>科目 4</td> </tr> <tr> <td>8、レクリエーション支援の方法</td> <td>個々の活動の習得</td> <td>ニュースポーツ</td> <td>科目 5</td> </tr> <tr> <td>9、良好な集団作りの方法</td> <td>アイスブレイキング</td> <td></td> <td>科目 4</td> </tr> <tr> <td>10、レクリエーション活動の習得</td> <td>モデルプログラムの習得</td> <td></td> <td>科目 5</td> </tr> <tr> <td>11、レクリエーション支援の方法</td> <td>自主的主体的に楽しむ力を育む</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>レクリエーション活動の展開方法</td> <td></td> <td>科目 4</td> </tr> <tr> <td>12、レクリエーション支援の方法</td> <td>自主的主体的に楽しむ力を育む</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>レクリエーション活動の展開方法</td> <td></td> <td>科目 4</td> </tr> <tr> <td>13、レクリエーション支援演習</td> <td>プログラムの立案</td> <td></td> <td>科目 5</td> </tr> <tr> <td>14、レクリエーション活動の習得</td> <td>個々の活動の習得クラフト</td> <td></td> <td>科目 5</td> </tr> <tr> <td>15、まとめとテスト。</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						1、レクリエーション概論	(学習のガイダンス)	ゲーム体験	科目 1	2、楽しさを通しての心の元気づくり	ソング・ダンスの体操		科目 2	3、レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得	ゲーム	科目 5	4、レクリエーション支援の理論	信頼関係づくりの理論		科目 3	5、レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法、ホスピタリティ		科目 4	6、個々の活動の習得	フォークダンス (レクダンス)		科目 5	7、良好な集団作りの理論	アイスブレイキングの方法		科目 4	8、レクリエーション支援の方法	個々の活動の習得	ニュースポーツ	科目 5	9、良好な集団作りの方法	アイスブレイキング		科目 4	10、レクリエーション活動の習得	モデルプログラムの習得		科目 5	11、レクリエーション支援の方法	自主的主体的に楽しむ力を育む				レクリエーション活動の展開方法		科目 4	12、レクリエーション支援の方法	自主的主体的に楽しむ力を育む				レクリエーション活動の展開方法		科目 4	13、レクリエーション支援演習	プログラムの立案		科目 5	14、レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得クラフト		科目 5	15、まとめとテスト。			
1、レクリエーション概論	(学習のガイダンス)	ゲーム体験	科目 1																																																																						
2、楽しさを通しての心の元気づくり	ソング・ダンスの体操		科目 2																																																																						
3、レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得	ゲーム	科目 5																																																																						
4、レクリエーション支援の理論	信頼関係づくりの理論		科目 3																																																																						
5、レクリエーション支援の方法	信頼関係づくりの方法、ホスピタリティ		科目 4																																																																						
6、個々の活動の習得	フォークダンス (レクダンス)		科目 5																																																																						
7、良好な集団作りの理論	アイスブレイキングの方法		科目 4																																																																						
8、レクリエーション支援の方法	個々の活動の習得	ニュースポーツ	科目 5																																																																						
9、良好な集団作りの方法	アイスブレイキング		科目 4																																																																						
10、レクリエーション活動の習得	モデルプログラムの習得		科目 5																																																																						
11、レクリエーション支援の方法	自主的主体的に楽しむ力を育む																																																																								
	レクリエーション活動の展開方法		科目 4																																																																						
12、レクリエーション支援の方法	自主的主体的に楽しむ力を育む																																																																								
	レクリエーション活動の展開方法		科目 4																																																																						
13、レクリエーション支援演習	プログラムの立案		科目 5																																																																						
14、レクリエーション活動の習得	個々の活動の習得クラフト		科目 5																																																																						
15、まとめとテスト。																																																																									
[使用テキスト・参考文献]			[単位認定の方法及び基準]																																																																						
「楽しさを通じた心の元気づくり」 レクリエーション支援の理論と方法 (財) 日本レクリエーション協会			履修時間と理論のテスト及び実技の指導技術を総合的に評価する 施設実習の報告、レク体験レポートも考慮する																																																																						
教員の実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)																																																																									

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護概論A		授業の種類 講義		授業担当者 中澤 里映
授業の回数 30回	時間数(単位数) 60時間 (4単位)	配当学年・時期 1年前期 (前半)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護の定義、介護福祉士を取り巻く状況を理解しながら、なぜ介護の専門職としての必要性が高まっているのかを知り、必要な職業倫理を学ぶ。介護の専門職としての職業倫理に基づいた介護、根拠に基づいた介護が理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護福祉士の法的根拠を理解し、職業倫理を学ぶ。要介護者の生活や思いをベースとした介護のあり方が理解できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>介護福祉士の原則・倫理を理解し、介護の意義・専門性を理解できる。個別ケアの重要性を理解したうえでの介護のあり方を理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護概論とは (生活歴、ジェノグラム作成) 2 介護福祉士を取り巻く状況 3 介護の成り立ち① 4 介護の成り立ち② 5 介護の成り立ち③ 6 介護の概念・定義 7 介護の見方・考え方の変化 8 介護の専門性 9 利用者に合わせた生活支援 10 介護福祉士の倫理① 11 介護福祉士の倫理② 12 求められる介護福祉士像及び役割と機能 13 介護における専門職能団体の活動 14 介護サービスのあり方・介護の仕事の本質的価値 15 介護サービス提供の場において介護福祉士の役割 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%) ・ 提出物・出席状況・授業態度 (20%) について総合的に評価する	
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護概論A		授業の種類 講義		授業担当者 中澤 里映
授業の回数 15回	時間数(単位数) 60時間 (4単位)	配当学年・時期 1年前期 (後半)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護福祉士を取り巻く状況を理解しながら、専門職としての役割や職業倫理を学ぶ。そして、利用者の『尊厳の保持』『自立支援』という視点を明確にするとともに、介護を必要とする人を生活の視点からとらえることができるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>まず、自分たちの生活を構成する要素や特性を理解することから始める。それを踏まえたうえで、高齢者や障害者を生活障害の視点から理解する。また、物理的・人的環境などの様々な面から利用者の生活環境をとらえる。さらに『尊厳を支える』という介護において重要な考え方についても理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>生活支援としての介護の役割や専門性を理解し、介護職が行う生活支援の意義を理解できる。ICFやリハビリテーションの考え方を理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>16 介護を必要とする人の理解</p> <p>17 私たちの生活の理解</p> <p>18 高齢者や障害をもった人たちの暮らしと介護</p> <p>19 QOLの視点の重視</p> <p>20 『その人らしさ』と『生活ニーズ』の理解</p> <p>21 個別支援の視点</p> <p>22 生活障害の理解</p> <p>23 生活環境の重要性</p> <p>24 人的な生活環境の重要性</p> <p>25 介護のはたらきと基本的視点</p> <p>26 さまざまな生活支援とその意義①</p> <p>27 さまざまな生活支援とその意義②</p> <p>28 さまざまな生活支援とその意義③</p> <p>29 尊厳を支える介護 (高齢者虐待防止法)</p> <p>30 試験</p>				
[使用テキスト・参考文献] 「介護の基本Ⅰ」「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%) ・提出物・出席状況・授業態度 (20%) について総合的に評価する	
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション技術A		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護におけるコミュニケーションの役割について理解ができ、利用者・家族との信頼関係を築く上で重要な手段であることを学ぶ。またチームで利用者の生活を支援させていただく専門職として、仲間・多職種との良好なコミュニケーションのあり方について理解できる。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>介護職におけるコミュニケーションの基本、介護場面における利用者・家族・チーム・多職種とのコミュニケーションのあり方について、講義と演習を取り入れながら行う。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対人援助職としてのコミュニケーションのあり方について理解できる。 ・コミュニケーションの困難な方に対するコミュニケーション方法について理解できる。 ・チーム・多職種との連携の重要性を理解できる。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コミュニケーションとは (自己紹介) 2. 介護におけるコミュニケーションとは 3. 介護におけるコミュニケーションとは 4. 介護におけるコミュニケーションの対象 5. 援助関係とコミュニケーション 6. コミュニケーション態度に関する基本技術 7. コミュニケーション態度に関する基本技術 8. 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 9. 言語・非言語・準言語コミュニケーションの基本 10. 目的別のコミュニケーション技術 11. 目的別のコミュニケーション技術 12. 集団におけるコミュニケーション技術 13. 集団におけるコミュニケーション技術 14. まとめ 15. 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「コミュニケーション技術」 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術A		授業の種類 講義		授業担当者 野村 晃江
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年 前期		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活を支えるための具体的技術を学ぶにあたり、「生活」とは何かを学習し、家事のもつ意義について理解する。さらに、家事の自立に必要な基本的な知識を習得できるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活がどのような側面から構成されているか理解する。 ・生活について、人間の発達段階と関連づけて理解する。 ・生活における家事のもつ意義について理解する。 ・家事の自立に必要な基本的な知識について理解する。 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士としての家事支援 (基礎基本) が習得できたか。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 自分自身の生活を見つめる (食生活に焦点をあてて) 2 生活を理解する 3 生活支援の基本的な考え方 4 生活支援の基本的な考え方 5 生活支援と介護過程 6 生活支援と介護過程 生活支援とチームアプローチ 7 生活支援とチームアプローチ 8 自立した家事とは 9 自立した家事とは 10 自立に向けた家事の介護 (調理) 11 自立に向けた家事の介護 (洗濯・掃除) 12 自立に向けた家事の介護 (買い物・ごみ捨て) 13 家事の介護における多職種との連携(悪質商法、クーリングオフ) 14 まとめ 15 試験 				
<p>[使用テキスト・参考文献]</p> <p>「生活支援技術 I」 中央法規出版</p>			<p>[単位認定の方法及び基準]</p> <p>定期試験・提出物・出席状況 授業態度等により総合的に評価</p>	
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術E (介護技術)		授業の種類 演習		授業担当者 片岡・野村・和田・中澤
授業の回数 30回	時間数(単位数) 90時間 (3単位)	配当学年・時期 1年通年 (前期)	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>自立に向けた「身じたくの介護」「移動の介護」「食事の介護」「入浴・清潔保持の介護」について概説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>利用者の心身の状態に応じた尊厳のある自立に向けた介護が実践できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生活支援技術を学ぶにあたって 2. 3 生活環境の整備 (ベッドメイキング) 4. 身じたくの意義と目的、身じたくに関する利用者のアセスメント、生活習慣と装いの楽しみを支える介護の工夫 5. 自立に向けた身じたくの介護 (洗面・整髪・ひげの手入れ・爪・化粧等) 6. 自立に向けた身じたくの介護 (口腔の清潔) 7. 8. 9 自立に向けた身じたくの介護 (衣類着脱) 10. 移動の意義と目的、移動に関する利用者のアセスメント、安全で気兼ねなく動けることを支える介護 11. 12. 13 自立に向けた移動の介護 (ボディメカニクス、体位変換) 14. 15. 16 自立に向けた移動の介護 (安楽な体位の保持、立位・歩行の介護) 17. 18. 19 自立に向けた移動の介護 (車椅子の介護) 20. 食事の意義と目的、食事に関する利用者のアセスメント、「おいしく食べる」ことを支える介護 21. 22. 23. 自立に向けた食事の介護 (安全で的確な食事介護の技法) 24. 入浴の意義と目的、入浴に関する利用者のアセスメント 25. 26. 27. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (入浴、シャワー浴、足浴、手浴) 28. 29. 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 (全身清拭、陰部洗浄、洗髪) 30. 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術 I・II」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・実技 (試験) ・提出物 出席状況・授業態度・身だしなみ	
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護過程A		授業の種類 演習		授業担当者 片岡 史陽	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい] 介護過程の意義・目的を理解し、それぞれの過程において必要な知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義・演習を通して、介護過程の展開の全体像を把握する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護過程の展開の全体像を他者に説明することができる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護過程の意義と目的 2 展開のプロセスと基本的視点 3 アセスメント〔情報収集〕 4 アセスメント〔情報収集〕 5 情報の解釈・関連づけ・統合化 6 過程の明確化 7 アセスメントの実際 8 計画の立案 9 目標設定 10 具体的な支援内容・方法の設定 11 実施 12 実施 13 評価 14 評価 15 まとめ・試験 					
[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習A		授業の種類 演習	授業担当者 野村 晃江・中澤 里映	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>第1介護福祉実習の教育効果を上げるため、施設見学や演習を通してコミュニケーション方法や適切な記録物の作成方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>1. 施設見学を実施する。</p> <p>2. 施設の種類や概要、基本的なコミュニケーション方法、実習記録物の書き方について概説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①基本的コミュニケーション方法やマナーを習得する。</p> <p>②第1段階介護福祉実習に向けて施設の概要と利用者の理解を深め、介護福祉実習内容を明確化できる。</p> <p>③実習記録物の適切な書き方、表現方法が理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1. ①介護福祉士に求められるもの ②特別養護老人ホームやすらぎの家見学オリエンテーション ③施設の種類と内容</p> <p>2. レポートの書き方 (レポート提出)</p> <p>3. 特別養護老人ホームやすらぎの家見学後の振り返り 特別養護老人ホームうららか春陽荘オリエンテーション (ユニットケアについて)</p> <p>4. 特別養護老人ホームうららか春陽荘見学後の振り返り</p> <p>5. 介護福祉実習の意義と目的、介護福祉実習に向けて (希望調査)</p> <p>6. 介護福祉実習に向けて事前準備 (個人票、通学届)</p> <p>7. 介護福祉実習に向けて事前準備</p> <p>8. 実習記録の書き方①</p> <p>9. 行事・企画の方法～七夕行事に向けて～</p> <p>10. 七夕行事の企画</p> <p>11. 七夕行事の準備</p> <p>12. 実習記録の書き方②</p> <p>13. 実習記録の書き方③</p> <p>14. 実習に行くまでに身につけておきたいマナーについて</p> <p>15. 実習オリエンテーション</p>				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習」 建帛社			[単位認定の方法及び基準] レポート提出・出席状況・授業態度で評価する	
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無 (<input type="radio"/>)				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習B		授業の種類 演習	授業担当者 野村 晃江・中澤 里映	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 1年 前期	必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>演習や体験学習を通して、利用者一人ひとりのこだわりや生活の違いについて学び、介護福祉士の役割について理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>在宅サービスの特性、利用者・家族の生活、在宅介護実習の意義について概説する。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>在宅介護の現状・問題点を多方面から理解し、学校で学んだ知識・技術を統合させて実習時に適応できる柔軟性、応用力、判断力を身につける。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅実習の意義と目的 2. 利用者について考える 3. 生活について考える 4. サービスの特性・概要① 5. サービスの特性・概要② 6. サービスの特性・概要③ 7. 体験学習の学びについて発表 8. 在宅介護を支援する立場の家族の理解・在宅での介護を円滑にするための留意点 9. 在宅介護を支援する立場の家族の理解・在宅での介護を円滑にするための留意点 10. 実習事前準備 (記録方法) 11. 実習事前準備 (記録方法) 12. 実習事前準備 (記録方法の実際) 13. 実習事前準備 (資料作成) 14. 実習事前準備 (資料作成) 15. 実習に向けてのまとめ 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習」 建帛社			[単位認定の方法及び基準] レポート提出・出席状況・授業態度で評価する	
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみ I		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 60時間 (2単位)		配当学年・時期 1年通年 (前期)	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援技術の根拠となる人体構造の理解 (構造・機能)、それらを活用した介護サービスの適切な提供を関連付けて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①人体構造や機能、心のしくみを基礎とした人間理解を深め、生命維持のしくみ、人間の基本的欲求を理解する。</p> <p>②生活支援を必要とする人の身体・こころのしくみを理解したうえで安全・安楽な自立に向けたケアの根拠を基にケアを展開できる能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>支援を必要とする人の身体構造や機能、機能低下や障害が及ぼす影響を理解し、安全・安楽な自立支援が実践できる</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 健康の定義について 2 こころのしくみについて (人間の欲求) 3 こころのしくみについて (基礎) 4 こころのしくみについて (思考、動機づけ、適応) 5 からたのしくみ (細胞・遺伝のしくみ) 6 からだのしくみ (脳、神経のしくみ) 7 からだのしくみ (感覚器のしくみ) 8 からだのしくみ (①全体) 9 からだのしくみ (②呼吸器について) 10 からだのしくみ (③循環器) 11 からだのしくみ (④消化器) 12 からだのしくみ (⑤泌尿器) 13 からだのしくみ (⑥骨・筋肉) 14 からだのしくみ (⑦骨・関節の動き) 15 試験 					
[使用テキスト・参考文献] 「こころとからだのしくみ」中央法規出版 参考文献は適時紹介			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 発達と老化の理解 I		授業の種類 講義		授業担当者 和田理砂	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 1年通年 (前期)	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理・身体的特徴に関する基礎的知識を習得する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>人間の成長・発達に関する知識を習得するため、発達の定義と各発達段階の特徴、その課題が具体的に理解できるようにする。</p> <p>身体的・精神的・社会的な役割や変化について学び、生涯にわたって発達が理解できるようにする。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>誕生から死に至るまでの心身の発達や成長・成熟、生理的変化が理解できる。そのうえで老化に伴う心身の変化、家庭や地域での役割の変化、心理的变化が理解できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 人間の成長と発達の基礎的理解 成長と発達の考え方 3 人間の成長と発達 発達理論 4 形成的成長 ①身体機能の発達 5 ②精神運動機能・心理社会的発達 6 ③発達の評価 発達理論・形成的成長 まとめ 7 社会から見た老年期 ①老年期の定義 高齢者施策 8 ②老年期をめぐる問題とこれからの老年感 9 ③まとめ 10 ライフサイクルの中の老年期 ①老年期の成熟・生活基盤・家族関係 11 ②老年期の喪失体験 死について 12 ライフサイクルを理解する ①高齢者が生きてきた時代～個人ワーク 13 ② ～グループワーク 14 ③ ～プレゼンテーション 15 試験 					
[使用テキスト・参考文献] 「発達と老化の理解」 中央法規出版 参考文献は適時紹介			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験 (80%)、授業態度、出席、提出物 (20%) について総合的に判断する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 人間関係とコミュニケーション		授業の種類 講義		授業担当者 片岡 史陽	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 介護実践において、ご利用者・職場・家族など重要な人間達との関係を形成していくためのコミュニケーション能力を高める。また個人だけでなくチーム・組織の一員を意識した考えも身につける。さらに人材育成や組織の目的を達成するためのマネジメント力についても高めることを目的とする。 [授業全体の内容の概要] 特にご利用者、家族とのコミュニケーション、関係づくり、心のケアのための基礎的態度、技術を習得するために、演習を交えながら「人間関係」を理解する授業を目指す。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)] 人間関係を形成していく上で必要な基本的コミュニケーション能力を身につけ、ご利用者や家族と関係づくりができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 人間と人間関係 (①自分と他者の理解) 2 (②発達心理学からみた人間関係) 3 (③社会心理学からみた人間関係) 4 (④人間関係とストレス) 5 対人関係におけるコミュニケーション (①概念と構造) 6 (②コミュニケーションの手段) 7 対人援助関係とコミュニケーション (①対人援助の基本) 8 (②態度とバイステックの7つの原則) 9 組織におけるコミュニケーション 10 チームマネジメントの意義 11 ケアを展開するためのチームマネジメント 12 人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント (①求められる実践力) 13 (②経験の支援・開発) 14 組織の目標達成のためのチームマネジメント 15 まとめ・試験					
[使用テキスト・参考文献] 「人間の理解」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護概論C		授業の種類 講義		授業担当者 中澤 里映	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい] 介護者と利用者の安全を確保するための留意点を理解する。さらに、介護者自身の健康管理の必要性を理解し、職業人としての人格形成を図る。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 講義やグループワークを通して、感染症や事故など介護におけるリスクマネジメントの必要性とその方法を学ぶ。また、介護者の健康や安全問題、環境整備について学ぶ。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 介護における安全確保の必要性と、その方法について理解できる。また、職業観や労働観を養い、自らの介護観を構築できる。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 介護実践における連携 2 協働職種の機能と役割 3 地域連携の意義と目的、関係機関の機能と連携 4 介護における安全の確保 5 事故防止、安全対策 6 リスクマネジメントの基礎と実際 7 生活の場での感染対策 8 高齢者施設と感染対策 9 感染対策の基礎知識 10 健康管理の意義と目的 11 健康管理に必要な知識と技術 12 安心して働ける環境づくり 13 自分が目指す介護福祉士像 14 自分が目指す介護福祉士像 15 試験 					
[使用テキスト・参考文献] 「介護の基本Ⅱ」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験(80%)・提出物・出席状況・授業態度(20%)について総合的に評価する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) リハビリテーション論		授業の種類 講義		授業担当者 岡部 孝生	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>リハビリテーションの理念と概要を理解してもらい、その上でリハビリテーションにおける介護福祉士の役割を認識してもらう事を目的としています。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>テキストに沿って授業を展開します。スライドや動画を多用することでリハビリテーションについての理解を深めてもらいます。必要に応じて、実技も取り入れる予定です。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>リハビリテーションにおける介護福祉士の役割を認識する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リハビリテーションの理念① 2. リハビリテーションの理念② 3. リハビリテーションの領域と役割① 4. リハビリテーションの領域と役割② 5. リハビリテーションに関する社会資源① 6. リハビリテーションに関する社会資源② 7. リハビリテーションと福祉用具、住居の改造、福祉のまちづくり① 8. リハビリテーションと福祉用具、住居の改造、福祉のまちづくり② 9. リハビリテーション介護① 10. リハビリテーション介護② 11. 障害別リハビリテーションの実際① 12. 障害別リハビリテーションの実際② 13. 障害別リハビリテーションの実際③ 14. 地域リハビリテーション 15. 定期試験 					
[使用テキスト・参考文献] 別巻2 リハビリテーション論 メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準] 出席ならびに定期試験		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術C (調理)		授業の種類 実習・講義		授業担当者 西村 佳菜子	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年前期	必修・選択 必修		
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>介護の基礎となる家庭生活とそこで営まれる衣・食・住の「食」に関する理解を深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調理の基礎 講義、実習 ・ 対象者別の調理 講義、実習 <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の栄養管理の重要性を理解し、「食ること」の意義を認識する ・ 高齢者を支える食事について実習を通して身につける 					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 調理の基本 炊飯、野菜の下処理、調味率 衛生管理 調理器具 点検 準備・後始末 2 栄養に関する基礎・食中毒 (講義) 3 和食 4 洋食 5 中華料理 6 行事食 I 7 行事食 II 8 疾病治療の食事 (講義) 9 糖尿病食 10 腎臓食 (減塩食含む) 11 脂質異常症食 12 高齢者の食事・摂食嚥下 (講義) 13 軟菜食 14 嚥下食 15 試験 					
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術I」 メヂカルフレンド社			[単位認定の方法及び基準]		
実務経験の有無 (有) ・ 無)			<ol style="list-style-type: none"> 1. 出席状況 2. 授業、実習態度 3. 試験 4. レポート等提出状況 		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術F (聴覚・言語障害)		授業の種類 演習		授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 15回		時間数(単位数) 30時間 (1単位)		配当学年・時期 2年 前期	
				必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>聴覚障害や言葉に障害があるため、生活を営むうえで、どのような困難を抱えているかを知り、支援を行う際に必要な知識や技術を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>聴覚障害のある人の生活支援技術の基本的な観点を理解する。 言葉の障害の原因によって異なる生活支援技術の具体的な内容を理解する。</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>生活支援に際してコミュニケーションの観点から、配慮した支援ができる知識と技術を修得する。</p>					
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 耳の構造 2 聴力とコミュニケーション手段 3 コミュニケーション支援 4 補聴器・人工内耳 5 他の感覚経路の使用 6 コミュニケーション促進技法 7 環境支援 8 重複障害への支援 9 事例 10 言葉の障害のタイプ分類 11 言葉に障害を認める人の生活支援技術の原則 12 発話障害のある人の生活支援技術 13 脳損傷による言語障害のある人の生活支援技術 (居住環境) 14 脳損傷による言語障害のある人の生活支援技術 (移動・食事等) 15 試験 					
[使用テキスト・参考文献] 「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 試験・授業態度・出席状況・提出物を 総合的に評価する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 生活支援技術G (知的・肢体・重複)	授業の種類 演習	授業担当者 野村 晃江	
授業の回数 2 3回	時間数(単位数) 4 5時間 (1 単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必修
[授業の目的・ねらい]障害の種類とその特性や原因、障害を持つ人の心理と家族の関係、介護者としての役割について学ぶ。移動支援サービスに関する知識・技術を習得し、自立に向けた安全な介護方法を理解できる。 [授業全体の内容の概要]講義を通して障害者の疾病・障害を理解した上で、演習による移動の介護を習得する。 [授業修了時の達成課題 (到達目標)]障害の特性に応じ、根拠に基づいた介護方法を理解できる。安全で正確な移動の支援を行なうことができる。障害者福祉への関心と継続的考察への動機づけ。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 <ol style="list-style-type: none"> 1 移動の介護に係る制度及びサービス・ガイドヘルパーの制度と業務 2 全身性障害者の生活の理解 3 全身性障害者の疾病、障害について (脳血管障害) 4 全身性障害者の疾病、障害について (骨関節疾患・筋ジストロフィー) 5 全身性障害者の疾病、障害について (頭部外傷・脊髄小脳変性症) 6 全身性障害者の疾病、障害について (脊髄損傷・筋萎縮性側索硬化症) 7 知的障害者の疾病、障害等に関する講義と演習 8 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた住環境・身支度) 9 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた移動・食事) 10 全身性障害者の生活の理解 (自立に向けた家事・睡眠・終末期) 11 障害者の心理・家族の心理 12 基礎的な移動の介護に係る技術に関する講義 13 重症心身障害児の介護と生活の実際 14 外出の介護に係る技術に関する演習 15 ノーリフティングケア 16 ノーリフティングケア 17 車椅子への移乗、ベッド上・畳間の体位変換、安楽の工夫 18 排泄及び、入浴浴槽への移乗、床から椅子・ベッドへの移乗 19 外出の介護に係る技術に関する演習 20 福祉用具見学・体験 (土佐ガスaico) 21 福祉用具見学・体験 (土佐ガスaico) 22 まとめ 23 試験 			
[使用テキスト・参考文献] 「ガイドヘルパー研修テキスト (全身性障害編)」 中央法規出版		[単位認定の方法及び基準] 定期試験・提出物・出席状況 授業態度等により総合的に評価	
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)			

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 手話 II		授業の種類 演習		授業担当者 前田 真紀
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害・者についての理解をさらに深める。 ・ コミュニケーション力を高め、自分の体験、意見や考えを手話表現ができる技術を習得する。 ・ 全国手話検定試験4級受験にむけての学習を行う。 <p>【授業全体の内容の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 厚生労働省手話奉仕員養成講座（入門課程）テキスト及び全国手話検定4級に基づく学習を行う。 ・ ゲスト講師を招き、実際に手話で会話を行う。 ・ 聴覚障害・者について理解をさらに深めるために、聴覚障害や手話についての基礎知識を学ぶ <p>【授業修了時の達成課題（到達目標）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 聴覚障害者との円滑なコミュニケーションが図れるよう、周りに働きかけ、自らも積極的に話しかけることができるようになる。 ・ 聴覚障害・者についての理解を深め、介護現場でどのような対応をしたらよいかを考え、それを実践できるようになる。 ・ 全国手話検定試験4級に合格する。 				
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション及び手話 I の復習/自己紹介をする 2 対話の基礎練習/旅行の計画 3 会話練習/予定をきく 「手話の基礎知識」/講義 4 会話練習/行事や食事の誘い 5 会話練習/理由を尋ねる 手話スピーチの練習 6 授業の感想 手話スピーチの発表 7 ろう者とのフリーディスカッション 8 実習先での会話練習及び聴覚障害者への対応について 9 検定試験4級受験対策①/出題範囲の単語の確認 10 検定試験4級受験対策②/出題範囲の単語の確認 11 検定試験4級受験対策③/手話スピーチの練習 12 検定試験4級受験対策④/手話スピーチの練習 13 検定試験4級受験対策⑤/面接の練習 14 検定試験4級受験対策⑥/面接の練習 15 総合学習/学習のまとめ 				
<p>【使用テキスト】 私たちの手話学習辞典 【参考文献】 手話奉仕員養成講座入門課程テキスト DVDで学ぶ手話の本（手話検定4級対応）</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】 提出物・授業態度・実技・レポートなど</p>		
<p>実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)</p>				

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 介護過程C		授業の種類 演習		授業担当者 片岡 史陽	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修	
[授業の目的・ねらい] 他教科で学習した知識・技術を統合して介護過程を展開し、利用者個別のよりよい人生を支援するための介護計画の立案・実践できる能力を養う。 [授業全体の内容の概要] 事例を通して介護過程の展開を学ぶ。 [授業修了時の達成課題（到達目標）] 利用者を多角的に捉え、個別の介護計画を立案・実践・評価できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 介護過程の意義・構成要素 2 介護過程におけるアセスメント 3 ニーズを見つける視点とニーズの判断 4 介護計画の意義 5 目標と期間の設定について 6 援助方法の設定と記録 7 介護計画の実施と記録 8 介護計画の実施 9 介護計画の評価 10 自立に向けた介護計画の展開と実際（事例） 11 自立に向けた介護計画の展開と実際（事例） 12 自立に向けた介護計画の展開と実際（事例） 13 自立に向けた介護計画の展開と実際（事例） 14 自立に向けた介護計画の展開と実際（事例） 15 試験					
[使用テキスト・参考文献] 「介護過程」中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 筆記試験・提出物・出席状況・授業態度について総合的に評価する		
実務経験の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無）					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 介護総合演習D		授業の種類 演習	授業担当者 片岡 史陽・和田 理砂	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (1単位)	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>第1・2段階介護福祉実習での学び、課題を踏まえ、第3段階介護福祉実習において総合的に利用者の日常生活の援助ができるように準備を学生自ら考えて行動ができるようにする。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>学生自身の日々の生活と支援を必要とする利用者の課題を照らし合わせながら、実習に向けて心身の準備、知識、技術の確認とともに自ら「気づき」「考える」「まとめる」「表現する」力を追究し、課題整理、取り組み方法を具現化できる。</p> <p>[授業修了時の達成課題 (到達目標)]</p> <p>①第3段階介護福祉実習に向けて個人、グループの課題が明確に出来る。 ②考察力を身につけ、適正な記録ができる。 ③就職を見据えて、障害・高齢者の介護サービスが理解できる。</p>				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第3段階介護福祉実習オリエンテーション 2. 実習準備 (第1、2段階実習の振り返り) 3. 実習準備 (個人の課題を明確にし、取り組み方法の検討) 4. 実習準備 (個人の課題に沿った自己学習レポートの作成) 5. 実習準備 (個人票、通学届の作成) 6. 実習準備 (個人票、通学届の作成) 7. 実習打ち合わせ会準備 8. 実習打ち合わせ会準備 9. 実習前訪問 10. 実習壮行会準備 11. 中間登校日 12. 実習の振り返り 13. 実習報告会の準備 14. 実習報告会の準備 15. 実習報告会の振り返り 				
[使用テキスト・参考文献] 「介護総合演習」 建帛社		[単位認定の方法及び基準] レポート提出・出席状況・授業態度で評価する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)				

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 藤本 義将																														
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必修																														
<p>[授業の目的・ねらい] 認知症の人のケアと生活支援の視点を理解し、その援助方法を学ぶ。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 認知症の人の生活の多面的な理解と介護の方法 家族への支援と地域のサポート体制 認知症の人の権利を守る制度、施策など</p> <p>[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 認知症のケアの視点と方法を理解する。 家族への支援、地域づくり、専門職の連携について理解する。</p>																																		
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 30%;">1 認知症の人のケア</td><td>① (認知症ケアの歴史)</td></tr> <tr><td>2 認知症の人のケア</td><td>② (認知症ケアの基本的考え方)</td></tr> <tr><td>3 認知症の人のケア</td><td>③ (尊厳を支えるケアの実践)</td></tr> <tr><td>4 認知症の人のケア</td><td>④ (尊厳を支えるケアの実践)</td></tr> <tr><td>5 認知症の人のケア</td><td>⑤ (認知症の人と環境)</td></tr> <tr><td>6 認知症の人のケア</td><td>⑥ (認知症の人と環境)</td></tr> <tr><td>7 認知症の人のケア</td><td>⑦ (認知症の人と環境)</td></tr> <tr><td>8 認知症の人のケア</td><td>⑧ (施設ケア・在宅ケア・地域ケア)</td></tr> <tr><td>9 認知症の人のケア</td><td>⑨ (ターミナルケア)</td></tr> <tr><td>10 認知症の人のケア</td><td>⑩ (ICFの視点に基づく認知症ケア)</td></tr> <tr><td>11 家族への支援</td><td>①</td></tr> <tr><td>12 家族への支援</td><td>②</td></tr> <tr><td>13 認知症の人の権利を守る</td><td>①</td></tr> <tr><td>14 認知症の人の権利を守る</td><td>②</td></tr> <tr><td>15 試験</td><td></td></tr> </table>					1 認知症の人のケア	① (認知症ケアの歴史)	2 認知症の人のケア	② (認知症ケアの基本的考え方)	3 認知症の人のケア	③ (尊厳を支えるケアの実践)	4 認知症の人のケア	④ (尊厳を支えるケアの実践)	5 認知症の人のケア	⑤ (認知症の人と環境)	6 認知症の人のケア	⑥ (認知症の人と環境)	7 認知症の人のケア	⑦ (認知症の人と環境)	8 認知症の人のケア	⑧ (施設ケア・在宅ケア・地域ケア)	9 認知症の人のケア	⑨ (ターミナルケア)	10 認知症の人のケア	⑩ (ICFの視点に基づく認知症ケア)	11 家族への支援	①	12 家族への支援	②	13 認知症の人の権利を守る	①	14 認知症の人の権利を守る	②	15 試験	
1 認知症の人のケア	① (認知症ケアの歴史)																																	
2 認知症の人のケア	② (認知症ケアの基本的考え方)																																	
3 認知症の人のケア	③ (尊厳を支えるケアの実践)																																	
4 認知症の人のケア	④ (尊厳を支えるケアの実践)																																	
5 認知症の人のケア	⑤ (認知症の人と環境)																																	
6 認知症の人のケア	⑥ (認知症の人と環境)																																	
7 認知症の人のケア	⑦ (認知症の人と環境)																																	
8 認知症の人のケア	⑧ (施設ケア・在宅ケア・地域ケア)																																	
9 認知症の人のケア	⑨ (ターミナルケア)																																	
10 認知症の人のケア	⑩ (ICFの視点に基づく認知症ケア)																																	
11 家族への支援	①																																	
12 家族への支援	②																																	
13 認知症の人の権利を守る	①																																	
14 認知症の人の権利を守る	②																																	
15 試験																																		
<p>[使用テキスト・参考文献] 「認知症の理解」 中央法規出版 参考文献：適時紹介</p>			<p>[単位認定の方法及び基準] ①出席日数 ②授業への参加姿勢 ③試験 ④レポート提出</p>																															
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)																																		

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) 障害の理解Ⅱ		授業の種類 講義		授業担当者 入川 真理	
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間 (2単位)	配当学年・時期 2年 前期		必修・選択 必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害の種類、その基礎疾患に対する医学的知識を習得する。 ・ 機能障害に伴い、医療的器具を使用している利用者の器具の管理方法、精神状態、健康状態の管理方法を学ぶ。 <p>[授業全体の内容の概要]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に影響している障害、疾患の基礎知識を医学的側面から学ぶ。 <p>[授業終了時の達成課題(到達目標)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 障害を起こしている疾患を理解する。 ・ 身体機能の障害が生活へ及ぼす影響を理解する。 ・ 医療的援助方法を理解し、他職種との連携の必要性を学ぶ。 <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 眼疾患 視覚障害 聴覚・言語疾患・障害 2. 運動機能障害 3. 運動機能障害 4. 知的障害 (疾患) 5. 精神障害 (疾患) 6. 高次機能障害 7. 発達障害 8. 内部障害 (心機能疾患) 9. 内部障害 (腎機能障害) 10. 内部障害 (呼吸器障害) 11. 内部障害 (膀胱・直腸機能障害) 12. 内部障害 (肝機能障害) 13. 内部障害 (H I V 難病) 14. 補足 見直し 15. 試験 					
[使用テキスト・参考文献] 障害の理解 中央法規出版			[単位認定の方法及び基準] 出席状況、授業態度 筆記試験		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無)					

授 業 概 要

授業のタイトル (科目名) こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 講義		授業担当者 和田 理砂
授業の回数 15回	時間数(単位数) 30時間(2単位)	配当学年・時期 2 年前期	必修・選択 必修	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生活支援技術の根拠となる人体構造の理解(構造・機能)、それらを活用した介護サービスの適切な提供を関連付けて理解する。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>①人体構造や機能、心のしくみを基礎とした人間理解を深め、生命維持のしくみ、人間の基本的欲求を理解する。</p> <p>②生活支援を必要とする人の身体・こころのしくみを理解したうえで安全・安楽な自立に向けたケアの根拠を基にケアを展開できる能力を身につける。</p> <p>[授業修了時の達成課題(到達目標)]</p> <p>支援を必要とする人の身体構造や機能、機能低下や障害が及ぼす影響を理解し、安全・安楽な自立支援が実践できる</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 食事に関連したこころとからだのしくみ(食事形態、嚥下との関連) 2 食事に関連したこころとからだのしくみ(食事の意義、心理社会的影響) 3 心身機能低下が及ぼす食事への影響について(変化と気づきと対応) 4 入浴清潔保持に関連したこころとからだのしくみ(基礎知識) 5 機能低下や障害が及ぼす入浴、清潔保持への影響(変化と気づきと対応) 6 排泄に関連したこころとからだのしくみ(基礎知識) 7 排泄に関連したこころとからだのしくみ(排泄の意義やしくみ、環境) 8 心機能低下が及ぼす排泄への影響(変化と気づきと対応) 9 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ(基礎知識) 10 心身機能低下や障害が及ぼす休息・睡眠への影響(変化と気づきと対応) 11 人生の最終段階のケアに関連するこころとからだのしくみ 12 死に対するこころの理解 13 終末期の対応～医療職との連携、家族への支援～ 14 臨終期の対応～医療職との連携、家族への支援～ 15 試験 				
[使用テキスト・参考文献] 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 参考文献は適時紹介		[単位認定の方法及び基準] 筆記試験(80%)、授業態度、出席、提出物(20%)について総合的に判断する		
実務経験の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)				

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名） 地域福祉論		授業の種類 演習		授業担当者 片岡 史陽・野村 晃江
授業の回数 15回	時間数（単位数） 30時間（1単位）	配当学年・時期 2年（前期）		必修・選択 必修
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>地域福祉の推進は、介護福祉士倫理綱領でも謳われている。地域福祉の考え方（それぞれの地域において人びとが安心して暮らせるよう、地域住民や公私の社会福祉関係者がお互いに協力して地域社会の福祉課題の解決に取り組む）を基盤に、地域活動、交流活動に参加する。その活動を通して、地域での生活を支える施設や人材について学びを深める。</p> <p>[授業全体の内容の概要]</p> <p>地域での生活を支える施設や人材について学びを深める。また、学生自身が地域住民としての自覚をもち、地域活動、交流活動に参加する。</p> <p>[授業修了時の達成課題（到達目標）]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉士として必要な地域福祉の基礎的な知識を習得する。 ・地域住民の一員としての自覚をもち、地域活動、交流に自主的に参加する。 				
<p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の居住地域について知る（地図の作成） 2. 自分の居住地域について知る（地図の作成） 3. 自分の居住地域について知る（地図の作成） 4. 自分の居住地域において利用できる福祉サービス・課題を理解する 5. 自分の居住地域において利用できる福祉サービス・課題を理解する 6. 自分の居住地域において利用できる福祉サービス・課題を理解する 7. 地域福祉活動実践（点字絵本作成） 8. 地域福祉活動実践（点字絵本作成） 9. 地域福祉活動実践（点字絵本作成） 10. 地域福祉活動実践（点字絵本作成） 11. 地域福祉活動実践（点字絵本作成） 12. 地域福祉活動実践（点字絵本作成） 13. 地域福祉活動実践（点字絵本作成） 14. 地域福祉活動実践（点字絵本作成） 15. 地域福祉活動実践活動報告 				
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]		
実務経験の有無（ <input checked="" type="radio"/> 有・無）		出席及び授業態度 提出物の内容・提出期限等で総合的に評価する		

